



敬虔なキリスト教徒でダウン症の原因を発見した医師で
近代遺伝学の父ジェロームルジューン教授はノーベル賞候補に
なったがダウン症の子どもたちの命と人権を護る人道の道を選んだ

ジェローム・ルジューン教授 のことを知って優しいライアーの 音色を楽しむ安らぎの集い 7.20



病理学研究者 百溪英一

獣医学博士の医学研究者で専門は感染と自己免疫病の病理学。平成元年にパリのパスツール研究所留学中に国立ネッケル小児病院にあったルジューン教授の遺伝科グループと交流。パリ市内の知的障害者親の会および作業所などとも交流。東都大学教授として看護学生に基礎医学や看護英語を教え、同大学や東京医科歯科大学人体病理学講座で研究を行った。現在は順天堂大学医学部神経学講座で研究を行い、同大保健医療学部では医療英語を非常勤講師も努めています。娘がダウン症であることから、専門の研究の傍ら知的障害のある人の人権侵害と擁護の問題も研究して親の会の育成や国際交流に努め、ダウン症国際情報センターのHPを通じて情報公開しています。2024年1月にジェローム・ルジューン教授の伝記を翻訳出版。その原著者との縁で本年5月にローマ（バチカン）で開催された生命倫理国際会議に招聘され、ダウン症の出生前診断と生命倫理について講演しました。講演会でその内容をご紹介します。



ライアー奏者 小河理恵

楽器店 ライアー、ピアノ講師としてライアーを教会、カフェ、ギャラリーなどで演奏している。シュタイナーの音楽療法で使用されているライアーの優しい音色と響きをお届けしています。

ジェローム・ルジューン教授について

1958年にダウン症候群の原因を発見したジェローム・ルジューンは、1958年にダウン症候群を発見し、この病気に苦しむ人々のために人生を捧げた偉大なフランスの遺伝学者と生命倫理の父として広く知られています。しかし、医学の職業を超えて、中絶に関する法律に反対することでダウン症候群の人々の擁護者となりました。1970年、フランスでダウン症候群などの「治療不可能な胎児障害の場合」に中絶を認める法律が成立しましたが、教授は公の場で反対し、イエス・キリストの400年前、ヒポクラテス以来、病気を治すことが医師の使命であり、病人を殺すことではないことを人々に思い起こさせました。最も弱い者に奉仕するというこの教授の取り組みは、候補に二度上がったノーベル賞受賞を逸するなど多くの困難を引き起こしましたが、教授の考えに賛同する人々は世界中において同時に現在の影響力をもたらしました。教授はローマ教皇ヨハネ・パウロ2世の友人、相談役としてパウロ2世の依頼で生命倫理、米ソ冷戦時代の核戦争の阻止などの活動にも参加し、日本の原爆の被害についてのレポートも出しています。



プログラム

講話：百溪英一 14:00~15:00 (20分休憩)

カトリック教徒で現代遺伝学の父ジェロームルジューン教授の遺徳から学ぶ命と人権の大切さ
ージェローム・ルジューン教授のサイエンス（科学）とコンサイエンス（良心）の調和した人生ー

ライブ演奏：小河理恵 15:20~16:00

ライアー奏曲予定：アヴェヴェルムコルプス、アメージンググレイス、いつくしみ深き、etc.

2024年7月20日（土曜日）開場：13:30 開演：14:00-16:00

開場：湘南恩寵教会 〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北2丁目3-38

参加費：無料（献金歓迎）、どなたでも参加できます。

主催：ボワラクテ企画 お問い合わせ先：Phone：08040504464

後援：日本ダウン症国際情報センター（DSIJ）<http://dsij.jp/>



会場のQRコード